

第 1 回 総 会 記 録

日時 平成 26 年 6 月 7 日 午後 1 時 30 分～

場所 富山県厚生連高岡病院 地域医療研修センター（I）

社団法人富山県農村医学研究会は、国の法人制度改革により平成 25 年 1 月 30 日をもって法人としての会を解散し平成 25 年 1 月 2 月 1 日に任意団体に移行しました。これまでの社団法人の精神を継承し、第 1 回総会を開催しました。

I. 総会議事の概要

会員総数 308 名 うち出席者 35 名 委任状 150 名

会長挨拶 鏡森定信

議長 厚生連会員 金森隆樹

議事録署名人 厚生連会員 辻 純男

厚生連会員 澁谷直美

書記 坪野由美、西川元樹

議事

第 1 号議案 平成 25 年度事業報告、収支決算報告承認について

第 2 号議案 平成 26 年度事業計画、収支予算承認について

第 3 号議案 役員の一部改選について

第 4 号議案 顧問の承認について

特別講演 富山県農村医学研究会会長、富山大学名誉教授 鏡森定信

演題「私の研究史からみた 農村と健康」

II. 平成 25 年度事業報告書

（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

I. 事業の概況

（社）富山県農村医学研究会は、昭和 44 年 1 月に設立して以来 44 年間、富山県農村の保健・医療・福祉に関わる問題の調査研究を行ってきたが、法人制度改革に伴い平成 25 年 1 月 30 日をもって法人としての会を解散致しました。

しかしながら、農村における保健・医療・福祉の課題は変わらず存在し、その解決を図ることは、日本の豊かな農業や農村の実現にとって必要不可欠であり、社団法人の精神を受け継ぐ会として、平成 25 年 1 月 2 月 1 日に任意団体としての富山県農村医学研究会を設立しました。

初年度の事業年度は平成 25 年 1 月 2 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日までであります。

この間、継続調査の農作業事故調査および社団法人としての調査研究発表集会を引き継ぐ発表集

会として「第31回富山県農村医学研究および健康管理活動発表集会」を開催してまいりました。この間、関係機関のご支援、ご協力に対して深甚なる謝意を表すものです。

II. 主な事業項目の概要

1. 任意団体としての「富山県農村医学研究会」設立総会

平成25年11月23日、厚生連高岡病院地域医療研修センター（I）

- ①議 事： ・第1号議案 会則の承認について
・第2号議案 会費の徴収について
・第3号議案 平成25年度事業計画、収支予算書の承認
・第4号議案 役員の承認について

2. 研究調査活動

(1) 農業災害事故調査

平成25年度の前期における農作業事故の臨床例調査を県内の外科、整形外科、皮膚科、眼科、脳神経外科、ICU、接骨院を対象に実施した。

なお、全共連の機構改革により昭和45年以来続けていました全共連県本部の生命共済、傷害共済より検索する農作業事故調査は出来ませんでした。その結果、臨床例は22件であり、これまでの約10分の1の例数でした。

(2) 農作業事故のケーススタディ

農村における農作業事故のケーススタディについて本年25例について実施しました。なお、全国における調査事例は、富山県における調査事例を含め154例となりました。

(3) 農作業における呼吸代謝等、身体影響に関する調査研究

トラクターによる荒起こし、草刈りにおける呼吸代謝、心拍、活動量について測定し、これらの作業における身体付加に関する調査を実施した。

その結果、特にトラクターやコンバイン等乗用型の機械作業では、3メッツを越えることがなく、今日の農作業はいわゆる意識的「運動」とはなっておらず、身体的意識的運動は、農作業とは別に取り組む事が必要と考えられた。

3. 各種研究会参加

(1) 第62回日本農村医学会

- ・開催日 平成25年11月7日（木）～8日（金）
- ・開催場所 福島市
- ・学会長 JA福島厚生連白河厚生総合病院長 前原和平
- ・会員発表 6題

①β3アドレナリンレセプター遺伝子変異と健診データの関連について 坪野洋子他

②喫煙率に影響する要因についての考察

－富山県厚生連健診受診者の喫煙率の年次推移から（平成19年～24年度）－

澁谷直美他

③高校生の生活習慣と骨密度の関連について

吉田 稔他

- ④草刈り作業時における足にかかる圧力について
－斜面及び平面での比較－ 大浦栄次他
- ⑤脳神経外科入院症例における年齢構成の年次変化に関する検討 原田 淳
- ⑥無花粉スギの発見・普及とアレルギー予防 寺西豊秀他

(2) 第31回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会

- ・開催日 平成26年3月1日(土)
- ・開催場所 厚生連高岡病院 健康管理センターホール
- ・会員発表 6題
 - ①中花粉数の年次推移と花粉症外来患者の関係について 寺西 秀豊
 - ②巡回検診の感染対策 ー病院と比較してー健康管理センター 橋本沙也加
 - ③若年女性のインスリン抵抗性とライフスタイル 田中 朋子他
 - ④グループ支援を主とした特定保健指導の効果の検証センター 若松沙保里他
 - ⑤アルツハイマー型認知症に思う 小川 忠邦
 - ⑥農作業事故のケーススタディから農作業安全を考える(3)
ー農機・農具の関わらない事故ー 大浦 栄次他

III. 主な行事

年 月 日	主な行事	
	事 項	場 所
25.4.15	農業災害調査	全共連富山(6名)
5.20	役員会	厚生連会議室
6.8	第44回総会	厚生連高岡病院
6.	日本農村医学会理事会	
10.	農業災害事故調査(前期)	
10.31	役員会	厚生連会議室
11.7~8	第62回日本農村医学会	福島市
11.23	解散・設立総会	厚生連高岡病院
12.16~18	高校生の骨密度調査	富山西高校
26.1.28	役員会	厚生連会議室
3.1	第30回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表 会	厚生連高岡病院
3.	農業災害事故調査(後期)	

IV. 総会

第1回総会

総会日現在会員数		308名
出席会員数	実際に出席した会員	35名
	委任状	150名
	計	185名
第1号議案		
平成25年度事業報告、収支決算書の承認について		原案承認
第2号議案		
平成26年度事業計画、収支予算書の承認について		原案承認
第3号議案		
役員の一部改選について		原案承認
第4号議案		
顧問の承認について		原案承認
*議事終了後、講演会を開催		
特別講演	富山県農村医学研究会会長、富山大学名誉教授 鏡森定信	
	「私の研究史からみた 農村と健康」	

財 産 目 録

(平成26年3月31日現在)

(単位：円)

内 訳	金 額	備 考
預 金	1,254,341円	
計	1,254,341円	

V. 平成 25 年度収支決算書

平成 25 年度 収 支 決 算 書

(自平成25年12月1日～平成26年3月31日)

収入の部

(単位：円)

項 目	予 算 額	決 算 額	差 引 額	備 考
会 費 収 入	308,000	308,000	0	
会 費	308,000	308,000	0	308人×1,000円
特別負担金	1,470,000	1,470,000	0	
特 別 負 担 金	870,000	870,000	0	870,000円(厚生連)
調査研究協力費	600,000	600,000	0	厚生連より繰入
雑 収 入	100	21	-79	
雑 収 入	100	21	-79	利息など
前期繰越金	49,219	0	-49,219	
収 入 計	1,827,319	1,778,021	-49,298	

支出の部

(単位：円)

項 目	予 算 額	決 算 額	差 引 額	備 考
会 議 費	100,000	124,925	24,925	
総 会 費	0	34,190	34,190	
役 員 会 費	100,000	90,735	-9,265	
事 業 費	1,600,000	355,000	-1,245,000	
研 究 調 査 費	750,000		-750,000	
専 門 委 員 会 費	20,000	0	-20,000	〃 打ち合わせなど
研 究 集 会 費	50,000	101,450	51,450	発表集会など
会 誌 発 行 費	700,000	0	-700,000	
編 集 委 員 会 費	20,000	0	-20,000	
通 信 費	30,000	122,000	92,000	
消 耗 品 費	30,000	131,550	101,550	
備 品 ・ 什 器	0	0	0	
旅 費 交 通 費	20,000	0	-20,000	
旅 費 交 通 費	20,000	0	-20,000	
雑 費	20,000	43,755	23,755	
雑 費	20,000	43,755	23,755	
予 備 費	38,100	0	-38,100	
予 備 費	38,100	0	-38,100	
支 出 計	1,778,100	523,680	-1,254,420	
次 期 繰 越 金	49,219	1,254,341	1,205,122	

VI. 平成26年度事業計画

VII. 平成26年度事業計画（案）

I. 事業方針

富山県内の農山漁村におけるすべての健康問題を調査研究し、明るく健康な村づくりに寄与する。特に、農薬中毒や農業災害、職業性疾患等農業医学的分野及び、農村環境や農村生活に起因する農村医学的分野について調査研究を行う。さらに、命を育む農業を営む事の精神的、社会的、文化的意義を明らかにし、心豊かな農村づくりに寄与する。

II. 事業計画概要

1. 農村の職業性疾患の調査研究
 - ・農村の地域環境並びに農作業の特殊性に起因する健康障害の調査研究
2. 農業災害の調査研究
 - ・農業機械の健康に及ぼす影響についての調査研究、特に騒音及び振動の影響に関する調査研究
 - ・農業機械及び農業機械以外による農業災害事故調査研究
3. 農薬の生体に及ぼす影響に関する調査研究
 - ・農薬中毒の実態調査
 - ・農薬の生体に対する急性及び慢性的影響に関する調査研究
 - ・農薬の生体残留に関する調査研究
4. 健康管理に関する調査研究
 - ・農業従事者の健康状態の把握と保健指導
 - ・農業従事者の健康管理に関する調査研究
 - ・農業従事者の生活習慣病の実態調査とその対策に関する調査研究
5. 農村における社会医学的研究
 - ・農村における高齢者に関する調査研究
 - ・社会変動による農業従事者の生活・健康に及ぼす影響についての調査研究
 - ・都市近郊農村における社会医学的研究
 - ・農村における食生活の変化と健康影響に関する調査研究
6. 農村における特殊疾患の調査研究
 - ・伝染病、風土病等の地域多発疾患の疫学的調査研究
7. 農村における環境汚染およびその変化と健康影響に関する調査研究
8. 乳幼児並びに学童の健康調査研究
9. 農村の健康会議、健康教室等の実施
10. 研究会誌並びに必要な印刷物の発行
11. 研究集会の参加及び開催
12. その他目的達成に必要な事項

III. 主な事業計画

1. 主な調査研究

- (1) 農業災害に関する調査研究
 - ①富山県における農業災害事故調査
 - ②農業災害事故のケーススタディ
 - ③高齢者の農作業安全に関わる調査研究
- (2) 農薬中毒に関する調査研究
 - ①農薬散布者の健康調査
 - ②有機リン剤の体内残留に関する調査研究
- (3) 農村におけるアレルギー疾患に関する調査研究
 - ①農村地区における花粉症に関する調査研究
 - ②農村住民のアレルギー疾患に関する調査研究
- (4) 農作業及び農作業環境と健康障害に関する調査研究
 - ①各種農作業における作業環境及び労働負荷に関する調査研究
- (5) 農山村における騒音と聴力障害などに関する調査研究
 - ①農業機械の騒音分析及び作業中騒音暴露量の測定
- (6) 農村環境の変化と健康影響に関する調査研究
 - ①農村における熱中症など温暖化影響に関する調査研究
 - ②農村における自然エネルギーの実態と利用の将来的可能性に関する調査
- (7) 農村における生活習慣と健康に関する調査研究
 - ①食生活と健康に関する調査研究
 - ②農村生活の変化と健康障害に関する調査研究
 - ③農村におけるメタボリックシンドロームの実態とその対策
- (8) 農村におけるプライマリーヘルスケアに関する調査研究
 - ①農村における健康管理運動に関する調査研究
 - ②農村検診における各種疾患の要因分析に関する調査研究
- (9) 農村における高齢者問題に関する調査研究
 - ①農村高齢者の生きがい因子の解析に関する調査研究
 - ②農村高齢者の農作業と骨密度の関連に関する調査研究
 - ③農村における介護および認知症等に関する調査研究
- (10) その他、農山漁村における各種健康・保健調査の実施

2. 各種研究集会参加・交流並びに開催

- (1) 第32回富山県農村医学研究及び健康管理福祉活動発表集会の開催
平成27年3月7日(土)、厚生連高岡病院
- (2) 第63回日本農村医学会および日韓農作業安全シンポ、ワークショップ
開催日時：平成26年11月13日、14日、15日
開催場所：つくば市

3. 会誌等の印刷物の発刊

- ①会誌の発刊
- ②農村医学に関する啓蒙資料の作成
- ③その他

4. その他目的達成に必要な事業

Ⅷ. 平成26年度収支予算書

平成26年度収支予算(案)

(自平成26年4月1日～平成27年3月31日)

収入の部

(単位:円)

項 目	予 算 額	備 考
会 費 収 入	308,000	
会 費	308,000	308人×1,000円
特別負担金	1,470,000	
特 別 負 担 金	870,000	870,000円(厚生連)
調査研究協力費	600,000	厚生連より繰入
雑 収 入	100	
雑 収 入	100	利息など
前期繰越金	1,254,341	
収 入 計	3,032,441	

支出の部

(単位:円)

項 目	予 算 額	備 考
会 議 費	200,000	
総 会 費	100,000	
役 員 会 費	100,000	
事 業 費	2,425,000	
研 究 調 査 費	1,500,000	各種調査研究
専 門 委 員 会 費	25,000	〃 打ち合わせなど
研 究 集 会 費	50,000	発表集会など
会 誌 発 行 費	700,000	
編 集 委 員 会 費	20,000	
通 信 費	50,000	
消 耗 品 費	30,000	
備 品 ・ 什 器	50,000	
旅費交通費	220,000	
旅 費 交 通 費	220,000	日本農村医学会・参加費、県内出張
雑 費	140,000	
雑 費	140,000	
予 備 費	47,441	
予 備 費	47,441	
支 出 計	3,032,441	

IX. 役員・顧問の名簿

富山県農村医学研究会役員・顧問名簿

理 事	役 職
鏡 森 定 信	富山県産業保健推進センター所長
石 黒 哲 也	県農業技術課 課長
安 藤 満	元富山国際大学 教授
寺 西 秀 豊	元富山大学医学部公衆衛生学教室 准教授
小 川 忠 邦	老健施設みしま野苑一穂 施設長
草 野 亮	北陸メンタルヘルス研究所 代表取締役
酒 井 富 夫	富山大学極東地域研究センター 教授
稲 生 暁 春	厚生連滑川病院 神経内科診療部長
亀 谷 富 夫	厚生連高岡病院 院長
南 里 泰 弘	富山県医師会・学術担当理事
長谷田 泰男	厚生連高岡病院 副院長
山 本 康 雄	富山県農協中央会農業対策部 部長
渡 辺 竜 一	全農富山県本部生活燃料部 部長
荻 野 孝 次	富山県厚生連 代表理事理事長
大 浦 栄 次	富山県厚生連 健康福祉アドバイザー
谷 井 悦 子	富山県農協女性組織協議会 会長
大 江 利 男	富山県農協青年組織協議会 会長
水 野 小夜美	富山県高岡地区生活指導員協議会 会長
監 事	役 職
田 中 茂 弘	厚生連滑川病院 副院長
西 川 藤 樹	富山県厚生連 常務理事

顧 問	役 職
石 田 礼 二	富山市民病院名誉院長
加 須 屋 実	富山大学名誉教授
寺 中 正 昭	寺中クリニック 院長
菊 池 誠	金沢西病院 理事長
熊 谷 武 夫	元高岡市保健センター 所長

富山県農村医学研究会 会則

富山県農村医学研究会

富山県農村医学研究会 会則

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は富山県農村医学研究会という。

(事 務 局)

第2条 本会は事務所を高岡市永楽町5番10号におく。

(目 的)

第3条 本会は農山村の実態に立脚して、医療と保健に関するすべての問題を調査研究し、健康な農山村生活を築くために寄与することを目的とする。

(事 業)

第4条

- (1) 農山村に関する医学的調査、研究ならびに保健福祉活動
- (2) 保健福祉に関する啓蒙ならびに会報その他必要な印刷物の発行
- (3) 研究発表会ならびに講演、講習会の開催
- (4) 日本農村医学会ならびに関係研究会との連絡および協力
- (5) その他目的を達するための必要な事業

第2章 会 員

(会 員)

第5条 本会の会員は、本会の目的に賛同して入会した者とする。

(会 費)

第6条 本会の会員は、総会において別に定める会費を納入しなければならない。

第3章 役員および顧問等

(役 員)

第7条 本会に、理事若干名、監事2名の役員をおく。役員は総会において選任する。理事は互選により会長1人を定めるものとし、また必要に応じて副会長2人を定めることができる。なお、理事および監事は相互に兼ねることができない。

(職 務)

第8条 会長は本会を代表し、会務を統括する。

2 理事はあらかじめ会長に事故があるとき、または会長が欠けたとき、その職務を代行するものを定めておくものとする。

3 理事は、理事会を構成し会務の執行を決定する。

4 監事は、会務の執行状況および財産の監査を行う。

(顧問)

第9条 本会に顧問をおくことができる。

2 顧問は理事会において推薦し、総会の承認をうるものとする。

3 顧問は理事会に出席し、意見をのべることができる。

(任期)

第11条 役員、顧問の任期は2年とする。ただし再任を妨げない。

(運営委員)

第10条 本会の運営を円滑にするため必要に応じて運営委員会を置くことができる。運営委員会は、会務全体の執行について意見を言うことができる。運営委員は会長が委嘱する。任期は2年とする。

(事務局)

第12条 本会に事務局をおき、事務局に事務局長および事務局員若干名をおく。

2 事務局長および事務局員は、会長が委嘱する。

第4章 会 議

(種別)

第13条 本会の会議は、総会および理事会、総会は通常総会および臨時総会とする。

(構成)

第14条 総会は会員をもって構成し、理事会は理事をもって構成する。

(職能)

第15条 総会は、次の各号に掲げる事項を議決する。

- (1) 事業計画および収支予算の決定
- (2) 事業報告および収支決算の承認
- (3) その他本会の運営に関する重要な事項

2 理事会は、次の各号に掲げる事項を議決する。

- (1) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (2) 総会に付議すべき事項
- (3) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

(開催)

第16条 通常総会は毎年1回5月または6月に開催する。

臨時総会は、理事会が必要と認めるとき、または会員の5分の1以上から会議の目的たる事項を示して請求があったときに開催する。

- 2 理事会は会長が必要と認めるとき、または理事の4分の1以上から会議の目的たる事項を示し請求があった時に開催する。

(招 集)

第17条 会議は会長が招集する。

- 2 総会を招集するには、会員に対し会議の目的たる事項および場所を示して開会の10日前までに通知しなければならない。

((議 長)

第18条 総会の議長はその総会において、出席会員のうちから選任する。

- 2 理事会の議長は、会長がこれに当たる。

(定 足 数)

第19条 会議は総会においては会員、理事会においては理事の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(議 決)

第20条 総会の議事は、出席会員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。この場合において議長は、会員として議決に加わる権利を有しない。

- 2 理事会の議事は、出席理事の同意をもって決する。

(書面議決等)

第21条 やむを得ない理由のため会議に出席できない会員、または理事はあらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、または他の構成員を代理人として表決を委任することができる。この場合において前2条の規定の適用については、出席したものとみなす。

(議 事 録)

第22条 会議の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 会議の日時および場所
- (2) 会員または理事の現在数
- (3) 会議に出席した会員の数または理事の氏名
(書面表決者および表決委任者を含む。)
- (4) 議決事項
- (5) 議事の経過
- (6) 議事録署名人の選任に関する事項

- 2 議事録には、議長および出席した会員または理事のなかから、その会議において選出された議事録署名人2人以上が署名しなければならない。

第5章 会計

(会計)

第23条 本会の会計は、次に掲げるものをもって構成する。

- (1) 会費
- (2) 寄付金品
- (3) 事業に伴う収入
- (4) その他収入

(事業年度)

第24条 本会の事業年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

附則

本会則は、平成25年12月1日より施行する。

投 稿 規 定

募 集 原 稿 農村医学の分野における独創的な研究および会員のたよりとします。

投 稿 の 資 格 投稿者は原則として富山県農村医学研究会会員とします。

原 稿 の 送 り 先 富山県農村医学研究会事務局宛（富山県高岡市永楽町5番10号）

投稿原稿の掲載選択順位は編集委員にご一任下さい。

論文の原稿の形式

1. 本文は本会規定の原稿用紙に、口語体、平かな、新かなづかいで、できるだけ簡潔に横書して下さい。
2. 外人名、地名、その他の固有名詞、特別な化合物名などは、できるだけ原綴のまま（Pasteur, Prostigmin 等）とし、動植物名は日本名の次に学名（ローマ字 Moccusrusus, 山椒藻 Salvinabatah 等）を記入する。計量にかんするものはメートル法に準拠し、次のような略号を用いる。メートル m, センチメートル cm, グラム g, キログラム kg 等。
3. コンマ（,）ピリオド（.）コロ（:）ゴシックの使用等に気をつけて下さい。
4. 図表は、そのまま製版できるように上質ケント紙または方眼紙に墨で、ていねいに書いて下さい。（図表は、特殊なものを除いては、出来上がり左右6.5cmに製版しますから、その2倍か3倍に書いて下さい。）
図表の文字は、こちらで記入しますから、鉛筆で書いて下さい。
5. 写真は出来るだけ鮮明なものをお送り下さい。
6. 本文に挿入する図表、写真については、挿入場所を原稿の欄外に明記（末記）して下さい。

無 料 掲 載 原稿用紙20枚（刷り上がり5頁）までとします。ただし挿入附図、附表を含みます。

有 料 掲 載 超過頁の印刷代、附図、附表の製版代の実費は投稿者の負担とします。ただし刷り上がり15頁を限度とし長篇の論文を5頁ずつ分割掲載することは認められません。

文 献

1. 雑誌の場合 著者名、標題名（雑誌指定の略号）、巻数（号数）、頁一頁、発行年月（昭和52. 5のごとく）。
2. 単行本の場合 著者名：標題名、発行所、発行地、発行年月（必要ならば引用の箇所の頁を最後に）

印 刷 印刷の部数や体裁などについてはある程度まで、実費をもってご希望に応じてます。ただし別刷30部までは無料で投稿者に進呈、30部以上は実費をご負担願います。

編 集 後 記

第32巻（平成13年）を発刊して以来、諸事情で休眠しておりました。第33巻発刊に向けて、早くから原稿を投稿して戴いた方々には大変ご迷惑をおかけしました。

平成26年度から当研究会は任意団体として活動していますが、法人からの精神を引き継ぐことで、発刊号数も引き継ぎ第33巻としました。

本会の活動は、医療関係者はもとより行政、農協および農村の保健と医療に関心のあるあらゆる方々の協力によって実施されてきました。

今後とも、多くの方々の投稿を期待します。

(M. Y)